

挨拶

退任挨拶

前副会長
東

実



皆さん、こんにちは。今ご紹介いただきました東でございます。再び壇上に上がらせていただきました。

この2年間、吉野前会長のご指導のもとで副会長を務めさせていただきました。ほんとうに感謝の気持ちでいっぱいでございます。私は理事会で副会長就任のときにご挨拶申し上げたんですが、副という名称がついた役職は極めて責任感が薄くて、そして実効的な働きがないというのが一般的によく垣間見られるものでございまして、私はまさにそれをやってしまったと言わざるを得ないかと思えます。吉野前会

長は、ほんとうに何から何まで陣頭指揮ですばらしいご活躍だったけれども、私は正直なところを申し上げて、何をやったか、基本的には何も申し上げることはないぐらい無責任でございました。大変申しわけございません。本日、「イノベーションの創出に向けた東芝の技術・知財戦略」と題した特別講演をさせていただいて、少しはお役に立てたかなとそんな状況でございます。

この2年間の在任中に印象に残った出来事を2～3ご紹介させていただきます。第一は我々の長年の夢である世界特許の話題です。つまり、現状では、日本で特許を出願し、そして米国へ出願し、さらに中国、EUも個別に出願・権利化しなければいけません。これを解決する世界特許に対する第一歩として、日米欧三極の特許庁のいろいろなコンセンサス、話し合い、そういったものが随分出てきたように思います。

特に、昨年7月から日米審査ハイウェイが施行されております。また、今年4月から韓国、7月からはイギリスの間でも審査ハイウェイが施行されることになり、この動きが加速されていくと、世界特許という道も近い将来実現できるのではないかと思います。

特に、米国も従来先発明主義から先願主義に移行するために新しい法案が出されて、その移行は時間の問題と言われております。そういう米国の動きがこの動きをさらに加速するのではないかと期待しています。

もう1つだけ挙げますと、職務発明の件です。先ほど講演の中でも申し上げましたが、初期の判決がかなり法外な値段、金額が打ち出されたわけでございますけれども、それがここ数年の間はかなりリーズナブルな金額の判決が出されるようになりました。そういう1つの流れができたということは、我々にとってといたしますか、日本の業界にとっては良い傾向ではないかと思っております。

最後になりますけれども、2年間、理事長、それから専務理事、常務理事をはじめとして、知財協の方々いろいろなご指導をいただきまして、つたない私の副会長の役を支えていただいたことに御礼を申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。